


平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4 - 9	地域福祉講座事業	継続	平成18年度	地域福祉課

1 事業概要

事業実施主体	中原区地域福祉推進実行委員会	対象者	中原区民	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容	なし	
目的及び内容	<p>「中原区地域福祉計画」推進の一環として、身近な地域の「場の確保」と「人を育てる」ことを目指して区内各地区で講座を開き、地域の福祉活動に結びつくよう支援していく。</p> <p>5地区の社会福祉協議会の代表委員からなる中原区地域福祉推進実行委員会に業務を委託し、地区社協単位で福祉ボランティアの養成や福祉施設の見学等の事業を実施する。</p>			
予算額	380,000(円)	決算額	188,125(円)	不用額 191,875(円)
不用の理由	5地区社協のうち3地区で事業を実施したが、残る2地区社協では実施に至らなかったため。			
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>(小杉地区社協ワークショップの様子)</p>	<p>小杉地区社協では「小杉地区の将来のビジョン展望」をテーマにワークショップ(9月)、「福祉の心を学び合おう」をテーマに総合福祉センター及び中部身体障害者福祉会館の施設見学、丸子地区社協では丸子地区の高齢者とボランティア希望者による交流会(月1回、合計10回)、大戸地区社協では「今の子育ての大切なポイント」「今どきの離乳食」「幼児と遊ぼう」の3回シリーズの講座(11月から1月)を実施した。</p>		
	実施時期 (開催日/回数等)	15日/15回	参加 人数等	520人

2 事業評価

<p>評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)</p> <p>地域福祉の啓発、新たなボランティアの養成、高齢者の外出支援や子育て支援などを、区民が主体となって企画・立案・運営し、区が事業の支援をする協働の取組ができた。</p> <p>いずれの企画も、協議会のメンバーのために実施するという考えではなく、地域住民を少しでも地域の福祉活動にまきこみ、福祉の輪を広げたいという考えであることが評価できる。</p>
--

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	<p>本事業は2年間実施したが、地区社協としての活動と類似する部分があることなどから、すべての地区社協で実施するには課題があることがわかった。</p> <p>平成20年度は、区内のすべてのボランティア団体を対象として公募することで、本事業のさらなる充実を目指す。</p>

区民会議からの主な意見


--

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-10	多胎児育児支援事業	継続	平成18年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	保健福祉サービス課 児童・家庭支援担当 ふたごちゃんフェスタ実行委員会		対象者	中原区在住の多胎児を持つ親 及び多胎児育児に関心のある区民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()		関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	多胎児育児は通常の育児にはない多くの負担を抱えながらの育児となる。また、外出も少なく、孤独・閉塞的な育児になりやすい。育児に前向きに取り組んでいけるよう 多胎児育児をしている親同士での育児の工夫などの情報交換 専門職による子育てに関するアドバイス ボランティアの見守りの中でゆっくりと会話ができる場作りを目的に 多胎児育児支援ボランティアの拡充・養成への支援 区内3会場での交流会の開催 ふたごちゃんフェスタ(休日開催)による家族単位の交流会を実施する。					
予算額	250,000(円)	決算額	237,913(円)	不用額	12,087(円)	
不用の理由						
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>(ふたごちゃんフェスタ)</p>		<p>ボランティアグループ「ピーナッツ」の活動支援及び ・ の企画・運営。(通年 参加者実数24名 延べ149名) 区内3会場での交流会の実施 国際交流センター 9月14日 12組(45人) 大戸こども文化センター 10月17日 7組(23人) 上平間第1町内会館 11月16日 4組(12人) ふたごちゃんフェスタ開催2月24日(日)曜日 実行委員会へ委託 多胎児家族43家族 延べ198人参加</p>			
	実施時期 (開催日/回数等)	上記記載	参加 人数等	上記記載		

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>交流会では、多胎児の保護者のより身近な会場で開催したこともあり、今まで参加できなかった母子の参加が認められ、また、妊婦も含めた交流が行えた。</p> <p>ふたごちゃんフェスタは今年度「ピーナッツ」へ初めて委託を行った。日曜開催としたことで父親の参加も得られ、母子のみの交流から家族同士へと交流が拡大した。また、地域住民がボランティアグループとして多胎児育児のフェスタを実施していることを知り多胎児の保護者たちからは中原区で子育てをされていてよかったという評価を得た。</p> <p>委託事業であるフェスタのみではなく、交流会においても「ピーナッツ」のメンバーが企画から積極的に参加し、ボランティア間のつながりから新たに読み聞かせボランティアなどの参加を得て支援の輪が広がった。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	2年間ボランティアを中心に交流会・フェスタを実施し、多胎児育児支援の実績を積み、区民の中でも定着してきている。今後、母体となる「ピーナッツ」の組織強化のため、新たなボランティアの発掘や多胎児育児経験者のOBボランティアの参加など各機関等との連携を検討していく予定。

区民会議からの主な意見

--

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-11	乳幼児ふれあいスペース事業	新規	平成19年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	保健福祉サービス課		対象者	区民 ・保健福祉センター利用者	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	当区は大型開発等により、乳幼児の人口が増加傾向にあり、転入出が多く、子育て情報や仲間作りに対しての需要が高い。健診対象者の95%以上が来所する乳幼児健診の機会を利用し仲間作りや健やかな親子関係づくりを促進することを目的に、子育てに理解のある市民ボランティアと協働し、平成18年度に改修した幼児室を活用しふれあい事業を実施する。3ヶ月健診では看護職が待合の時間を利用し個別に声をかけながら育児支援を行う。1歳半、3歳児健診では待合の時間に安全に楽しく親子で遊べるように専門職が関わる。また、3歳児健診は昨年から引き続き公立保育園の保育士が参加し、地域での育児情報を提供していく。				
予算額	588,000(円)	決算額	563,854(円)	不用額	24,146(円)
不用の理由					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】	平成19年6月から3ヶ月健診において子育てアドバイザーが待合時間に保護者からの細かな相談に応じるようにした。 平成19年6月から1歳半健診の待合時間に保育士が幼児室にて待機し、待合の時間に遊びながら待てるようにし、保護者に遊びの指導や交流を促した。 平成18年度から3歳児健診の待合時間に公立保育園の保育士が参加してきたが、本事業での臨時職員による保育士を増員し、安全確保を図り親子のふれあいを促した。			
	別添資料 (市政だより 平成20年1月号)	実施時期 (開催日/回数等)	平成19年度通年	参加人数等	区民親子約5,000組

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
孤立しがちな親子が健診の待合時間を利用してボランティアや専門職と関わることで細かな不安等を相談でき、個人にあった育児情報を提供し、地域の活動や仲間作りへと安定して育児に向き合えるようになっている。 平成19年度に利用者へのアンケートを実施したが、待合の時間に専門職から親子遊びのヒントや発育発達を踏まえた基本的な生活習慣の助言が得られて大変参考になったという意見が多く得られた。また、子どもが飽きてしまいがちな健診の待合時間を安全に楽しく過ごすことで有効に使えた。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	乳幼児健診の待合時間を有効に利用し、親子のふれあいや専門職との相談を気軽に行える場となっている。ふれあい事業の中の親子遊びの工夫や、地域情報のより分かりやすい提供の方法などを見直し、今後も展開していく。

区民会議からの主な意見

--

子育て④ 子育て 未来をつくる⑭
ここにこコーナー



保健福祉センターでは1歳児半と3歳児健診時に、区役所別館幼児室で「ここにこコーナー」を開設しています。

コーナーでは、育児ボランティア「ポケットの会」と公立保育園保育士が、ちょっとした育児相談に乗ってくれたり楽しい遊びを教えてください。「園庭開放の情報など身近な保育情報が聞けた」「待ち時間を安全に過ごすことができた」と利用者からも好評。健診の際にはぜひ活用してください。

区役所保健福祉サービス課 ☎744-3263、☎744-3343

これまで「区民活動支援コーナー」として利用されていた区役所五階フロアを、装いも新たに区民交流センターとして開設します。誰でも気軽に立ち寄ることが出来る交流の場・フリースペースをはじめ会議室、印刷室もあります。地域で活動する団



**区民の交流の場
 交流センター**

三月十日(予定) 区役所五階に区民交流センターと区民交流サイトが開設します。

区民交流センター **区民交流サイト** が **オープンします**

3月10日オープン!

**区民交流サイトって
 どんなホームページ?**

ポイント①

▼画面イメージ



ポイント②



ポイント③
 イベント情報などをメール配信

体は事前登録をすれば、会議室、印刷室が利用できます。地域活動についての講習会や勉強会を行う「まちづくりサロン」も毎月第二水曜に開催します。サロンは誰でも参加できます。

**地域の情報発信拠点
 交流サイト**

区民交流サイトはインターネットで町内会・自治会・市民活動団体が情報発信することが出来る新たなホームページ(右参照)です。このサイトでは、あらかじめ利用登録した団体がイベントや講座の案内などの情報を自由に発信することが出来ます。また、

「いつでも、どこでも、誰でも」をモットーに活動する「平間スポーツ・レクリエーションクラブ」。年齢や性別に関係なく、自分のペースでスポーツを楽しむことができるクラブです。主な活動場所は旧平間小学校付属幼稚園舎。現在は土・日曜に卓球とソフトテニスを中心に活動しています。大人に人気のヨガ教室も引き続き実施する予定です。会員として活動しているのは二十五人。会員以外でも参加することが出来ます。



大人に人気のヨガ教室

**みんなで気軽にスポ
 総合型地域スポーツクラブ
 「平間スポーツ・レクリエーションクラブ」**

個人利用者は、関心がある分野の情報を自動配信するメールマガジンサービスも受けられます。交流センターと交流サイトは利用団体の事前登録を一月四日から受け付けます。

卓球が大好きな五年生の原中「卓球に参加の学年の『よ』と話して同クラブは市などが推進域スポーツクラブ世代が多種目軽に参加できる交流の場を積極的に活動して河村勇さんは汗をかける体を動かすキ活動に参加しと話してくれ活動の詳細問い合わせく問平間スポーツクラブ 140。教育課 ☎(200) 33950

**センター
 愛称を募**

区では区民区民交流サイトを募集します。んの交流の場持てる愛称をい。決定したのオープン時ジなどで発表開週一月二十でに住所、氏愛称を記入しスで〒211-8570中興課 ☎(74) 33346。区


区役所地 3324、☎

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-12	母親支援事業	新規	平成19年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	保健福祉サービス課		対象者	区民 ・保健福祉センター利用者	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	子育ての中で、孤立・不安・苛立ち・ストレスを感じながら、軽減・解消する場や機会をもてずに、子どもとの関係がゆとりのないものになっている母親が増加している。早い段階で育児支援に結びつき母の孤立を防ぐことは、虐待予防のために重要である。乳幼児健診の受診率は3ヶ月時健診(95.7%)、1歳6ヶ月児健診(96.1%)、3歳児健診(95.0%)と高く、健診時に母親支援を行うことで、支援を必要とする対象者をより高い率でカバーできる。また、区民サービスの公平性が高まる。				
予算額	490,000(円)	決算額	457,889(円)	不用額	32,111(円)
不用の理由					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		各乳幼児健診時に母親からの子育てに関する相談を丁寧に行う担当保健師等を配置し対応した。このことから、保健福祉センターが今後の相談者として認識され、電話相談、来所相談へと繋がるケースが増加した。また、区内での重症な児童虐待へと発展する事案は平成19年度には起こらなかった。		
	(窓口での相談の様子)		実施時期 (開催日/回数等)	平成19年度通年	参加 人数等

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
全体に育児困難感が高まっている状況であり、その変化は急速である。次世代を担う子どもたちが健やかな心と体に育つためにまずは母親支援を行うことが必要である。平成19年度に行った本事業を通し、子どもの発育発達の節目で行われる乳幼児健診の各場面で専門職が丁寧に母親の気持ちや育児の不安に沿い相談を進めることで、母親の緊張や不安が緩み、よりよい母子関係が結べた。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	本事業は、平成19年度から協働推進事業として展開した乳幼児ふれあい事業へ統合していく。

区民会議からの主な意見

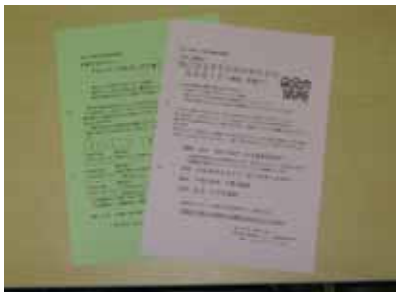
--

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-13	軽度発達障がい児育児支援事業	新規	H19年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	中原区役所保健福祉サービス課	対象者	2～3歳代児の発達の見守りが必要と思われる児とその母		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	軽度発達障がい児について、育児困難感を持つ保護者が多いことから、啓発活動や保護者への支援を目的とする。 専門家を招き、月1回程度学習会開催。保護者や区民が理解を深め、保護者にとって育児上の共感できる仲間づくりの場となるよう運営する。				
予算額	329,200(円)	決算額	240,268(円)	不用額	88,932(円)
不用の理由	保健師賃金、保険代が当初予定より少なく済んだため				
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】	あり方検討会を年2回実施。 (H19年2月:10名参加、H19年12月:10名参加) 区民向けの講演会を年1回実施。(H20年2月:計41名(保護者25名、児16名参加(保育付)) ・軽度発達障がい児対象のセミナーを3回コースで実施。(H20年2月:9組母子計18名参加)			
	 学習会開催案内チラシ	実施時期 (開催日/回数等)	上記記載	参加 人数等	上記記載

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>発達障がいに関して地域会議を持つことは今までになかったが、初の試みとして取り組んだ。 興味を持つ区民の方が多く来所。啓発活動対象の方も来たが、発達障がいまたはそれを疑われる児の母も多く来所した。 発達障がいを有するために、育児で困っている母の数は相当数いると見受けられる。 その意味でこの事業を展開する意義はあると考える。 どのような支援をしていくとより有効な支援になるのか、継続して考察していくことは必要と思われる。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	H19年度実施した内容をふまえ、同等またはそれ以上の回数を展開する予定。

区民会議からの主な意見

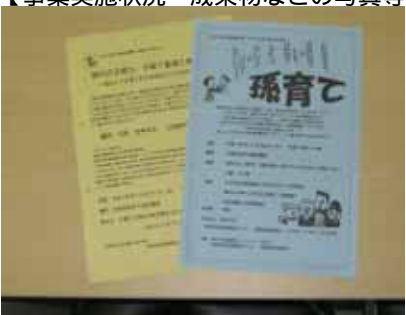
--

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-14	三世代子育て支援推進事業	新規	平成19年度	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	保健福祉サービス課		対象者	子育てに関心がある区民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容				
目的及び内容	<p>少子化の中で祖父母世代も子育てへの関心が高くなっている。若い世代の子育てを見守る立場として、現代の子育て事情や、祖父母として親世代への関わりや孫の子育てをどう支援していくかについて学ぶ機会とする。</p> <p>子育て支援啓発の講演会「現代の子育ち、子育て事情と子育て支援」講師：汐見稔幸（白梅学園大学学長） 祖父母として孫の子育てに関わる人への講座を2回実施する。</p>					
予算額	168,000(円)	決算額	163,044(円)	不用額	4,956(円)	
不用の理由						
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>講座開催案内チラシ</p>		<p>10月31日「現代の子育ち、子育て事情と子育て支援」の講演会には49名が参加した。内容も好評で感想に今後子育てに関する活動をしたいと答えた人が8名いた。その内の2名が保健福祉センター事業「すすく子育てボランティア養成講座」を受講し、子育てボランティア「ポケットの会」に入会し、活動に参加している。</p> <p>11月29日と3月14日の「じいーじとばあーばの孫育て」の講座には、妊婦とその父母、義父母、母子とその祖母、娘の里帰り待つ実母等、合計29名が参加した。小児科医師や助産師から、子どもの病気や育児への関り等の現実的な話を、座談で他の人の考えを聞き、心構えができたとの感想が多かった。</p>			
	実施時期 (開催日/回数等)	平成19年度内3回 (開催日は上記)	参加 人数等	合計78名		

2 事業評価

<p>評価の結果と理由（緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること）</p> <p>子育て支援への啓発講演会の参加者の中から2名が、乳幼児健診ボランティアとして活動している。この講演会が一步を踏み出すきっかけとなった。またすでに子育て支援に関わっている参加者も10名以上いた。その方達にとっても活動の意義を明確にし、元気を与え活性化に役立った。祖父母世代（40～70歳代）にとって活動に参加することが、地域の人との交流や生きがいに繋がり、健康にも役立っている。また、2回の講座については、予想よりも参加人数が少なかった。里帰り出産する人が多いことから、地方に住む祖父母の参加は困難だったと思われる。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	<p>祖父母世代（40～70歳代）への子育て支援推進の取り組みとしては、関連する「すすく子育てボランティア養成講座」や双子育児の支援事業「ピーナッツの会」（ボランティア）への参加を広く呼びかけ、強化することで実施していく。</p>

区民会議からの主な意見


--

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-15	認知症予防「(仮称)脳はつらつ教室」モデル事業	新規	平成19年	高齢者支援課

1 事業概要

事業実施主体	高齢者支援課・地域保健福祉課		対象者	認知症になる危険性の高い 高齢者	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容	健康福祉局・介護予防事業		
目的及び内容	認知症予防訓練を実施し、活動を通して閉じこもりを防止し、仲間づくりや介護予防など高齢者の生活の質の向上を目指す。対象者とボランティアといった地域住民を含めた事業運営により、地域における介護予防活動の普及・拡大を目指す。週1回、認知訓練や介護予防学習会を中心としたプログラムを実施する。また、活動を支援するボランティアを育成するための学習会を併せて開催する。				
予算額	270,000 (円)	決算額	201,123 (円)	不用額	68,877 (円)
不用の理由	賃借代・ボランティア謝礼予算を計上していたが、会場の区役所会議室等を使用し、またボランティア参加が少なく予定よりも支出しなかったため				
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		継続参加者は体力測定の結果から歩行能力の改善が明確であった。認知能力では維持または向上がみられた。また、生活機能評価の結果から改善がみられ、外出頻度も上がった。生活の変化はアンケート結果から「運動をするようになった」「人に会う事が億劫ではなくなった」「生活・時間のけじめがついた」などの良好な変化があった。 ボランティア講座のプログラムでは、ボランティアの自主性を引き出すよう工夫して支援した。その結果、積極的な意見交換から自主的に改善策を考え実行することができた。次年度への継続の意見もあり、活動を地区で広げる上で必要なボランティア育成ができた。		
	脳はつらつ倶楽部の様子		実施時期 (開催日/回数等)	ボランティア講座 6~7月 計4回 脳はつらつ倶楽部 9~2月 計22回	参加 人数等 26名 脳はつらつ倶楽部 19名

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
参加者は認知症予防の教室に参加することによって認知能力・生活機能において維持・向上があった。また、良好な生活の変化がみられた。しかしながら、参加者自身の自主活動への意欲はみられず、対象者が虚弱高齢者であることから、今回のプログラムは生活の安心感や自信につながったが自主性までは困難であった。 ボランティア養成は当初から役割を明確にし、脳はつらつ倶楽部実施のなかで毎回カンファレンスを行い、中間、終了前にボランティアの話し合いの場を設けることにより、自主的な活動へつながることができた。また、参加者と交流することでボランティアはやりがいを感じながら活動することができた。 ほかに、参加者にとってもボランティアにとってもお互いがいることにより参加継続につながった。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	現在活動しているボランティアは継続の意思があり、支援を行う必要がある。また、新たにボランティア養成を行い、今後はボランティアの活動を地域へと広げるよう取り組んでいく方針である。

区民会議からの主な意見

--